

北海道大学病院に通院中（または過去に通院・入院されたことのある）の患者さんまたはご家族の方へ（臨床研究に関する情報）

当院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、患者さんの診療情報を用いて行います。このような研究は、厚生労働省・文部科学省の「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」（平成 26 年文部科学省・厚生労働省告示第 3 号）の規定により、研究内容の情報を公開することが必要とされております。この研究に関するお問い合わせなどがありましたら、以下の問い合わせ先へご照会ください。

[研究課題名] 血液培養陽性患者における de-escalation の実施状況とその有用性調査

[研究機関名・長の氏名] 北海道大学病院 寶金 清博

[研究責任者名・所属] 井関 健（薬剤部・部長／教授）

[研究の目的]

近年、抗菌薬の繁用による薬剤耐性菌出現が問題となっています。その対策の一つとして、de-escalation（デ・エスカレーション）という方法があります。感染症の原因菌が判明しないうちは、あらゆる菌に効果を示す抗菌薬が使われることが多いですが、検査を行うことで原因菌が判明した場合に、その原因菌のみに効く抗菌薬を選びなおして（標的となる菌をしっかりと定めて）治療を継続することを de-escalation といいます。de-escalation を行うことにより、薬剤耐性菌の出現を防ぐだけでなく、医療コストの削減なども期待されています。de-escalation は多くのガイドラインで推奨されていますが、実際は安全性（de-escalation が治療失敗に影響するか否か）に関する根拠は乏しく、現場でも安全性を懸念して行わない場合が多々あります。

本研究では、実際にどの程度 de-escalation が行われていたかを調査した上で、その安全性を検証します。これらの取り組みにより、最適な抗菌薬治療を患者さんに提供することを目指します。

[研究の方法]

○対象となる患者さん

2008 年 4 月～2016 年 3 月に北海道大学病院において、入院中に血液培養から MSSA(methicillin-sensitive *Staphylococcus aureus*)、*Pseudomonas aeruginosa*、*Enterococcus sp.*、*Streptococcus pneumoniae* が検出された患者さん

○利用するカルテ情報

カルテ情報：年齢、性別、入院病棟、入院診療科、使用された抗菌薬とその使用期間、感染部位、身体所見、血液検査結果、使用された抗菌薬の薬価を基に算出した金額

[研究実施期間] 実施許可日～2019年4月1日

この研究について、研究計画や関係する資料、ご自身に関する情報をお知りになりたい場合は、他の患者さんの個人情報や研究全体に支障となる事項以外はお知らせすることができます。

研究に利用する患者さんの個人情報に関しては、お名前、住所など、患者さん個人を特定できる情報は削除して管理いたします。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる情報は削除して利用いたします。

* 上記の研究に情報を利用することをご了解いただけない場合は以下にご連絡ください。

[連絡先・相談窓口]

北海道大学病院 薬剤部 山田 武宏

〒060-8648 北海道札幌市北区北 14 条西 5 丁目

電話 011-706-5754 FAX 011-706-7616